

## 第 126 回東葛しぜん観察会

### 干潟の生き物わくわく探し

山口正明（船橋市）

日 時：2016 年 6 月 5 日（日）9:30～12:00 天気：曇り

場 所：江戸川放水路河口干潟（市川市）

参加者：一般 13 名（内 子ども 6 名）、指導員 15 名

担当指導員：田島正子、米澤裕子、山口正明

昨年に引き続き、今年もとても悩ましい天気で、開催か中止か大いに迷いました。当日早朝は雨降りで、担当者間で電話相談した結果、若干回復しそうな雨雲移動予報を頼りに一応開催することに。「無理はしないでください」の言葉とともに、米澤さんを中心に一般参加者に連絡してもらいました。事前申込み 42 名に対して、最終的に 13 名とこじんまりした集まりになりましたが、結局、集合時間には雨も上がり、曇りで丁度よい観察日和となりました。

場所は、妙典駅から徒歩 10 分ぐらいの汽水域の江戸川放水路河口。まず参加者に、今の河岸がどのあたりにあるかを覚えてもらいました。大潮のこの日、干潮のピークの午前 11 時には河幅がかなり狭くなり、お父さんお母さん方は結構、関心していました。

干潟では、足をとられそうな泥地→少し硬い地面→砂地→乾いた崖地で、住んでいる生き物、とくにカニの違いを理解してもらいました。ヤマトオサガニ→チゴガニ→コメツキガニ→カクベンケイガニと住人が変化してゆきます。はじめは不安そうだった子どもたちにカニの持ち方を教えると、途中からはどんどん手でつかまえます。ヤマトオサガニの潜望鏡のような目に触れると、パタンと横に倒して格納する様子には、子どもたちから歓声が。カニのオスメスの見分け方もみなさんマスターです。

貝は、アサリ、ムラサキイガイ、オキシジミ、シオフキ、ホンビノスガイなど。1998 年に日本で初めて幕張の人工海浜で発見されたホンビノスガイはここの干潟でもいたるところに。この貝目当てに多くの人が一心不乱に掘っている姿には皆さん驚いていました。

最後は採取した生き物を分別してバットに入れて、田島さんの生き物解説。カニは 8 種類、マハゼ、ボラ、ホヤ、フジツボ、アナジャコやキセワタというウミウシの仲間なども。

「こんなに多くの種類の生き物がいるとは思わなかった。」と大人の感想。こどもたちには、やはりカニが人気で、「カニをたくさんつかまえられて楽しかった。」との声。二枚貝を入れた水槽と何もいれない水槽を比較した実験では、二枚貝の入った水は透明に、片方は濁ったまま。そのあまりの違いに誰もがビックリ。干潟の浄化作用を理解してもらいました。

